広島県立文書館収蔵文書展

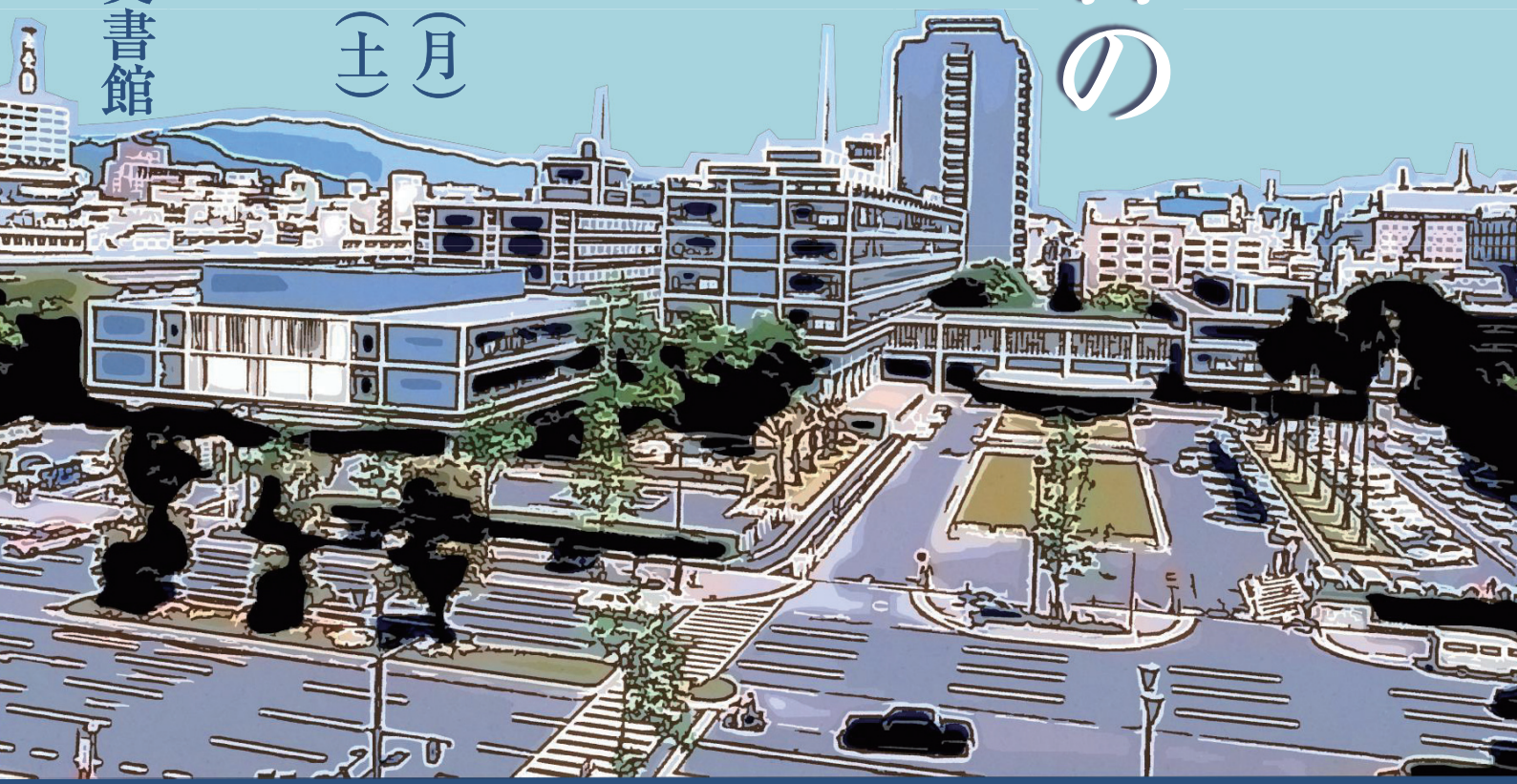
資料からみた広島県庁舎の歴史

広島県誕生150周年記念

会期

令和三年　三月二十九日（月）～六月十二日（土）

広島県立文書館



はじめに

令和三年（二〇二一）は、明治四年（一八七一）の廃藩置県で広島県が誕生してから百五十周年の節目に当たります。本展ではこれを記念して、広島県庁舎の歴史について紹介します。

明治四年七月、広島県は広島城本丸に県庁を設置しましたが、その後広島城三の丸、国泰寺（火災で焼失）、仏護寺へ移転し、明治十一年四月に水主町に県庁舎を新築しました。この庁舎は、以後六十七年間にわたって県政の拠点となりましたが、昭和二十年（一九四五）八月六日の原爆被災によって壊滅しました。その後は東警察署（下柳町）、東洋工業（安芸郡府中町）、旧陸軍兵器補給廠（霞町）を転々とし、昭和三十一年四月、現在の庁舎（本館など）が基町に建設されました。

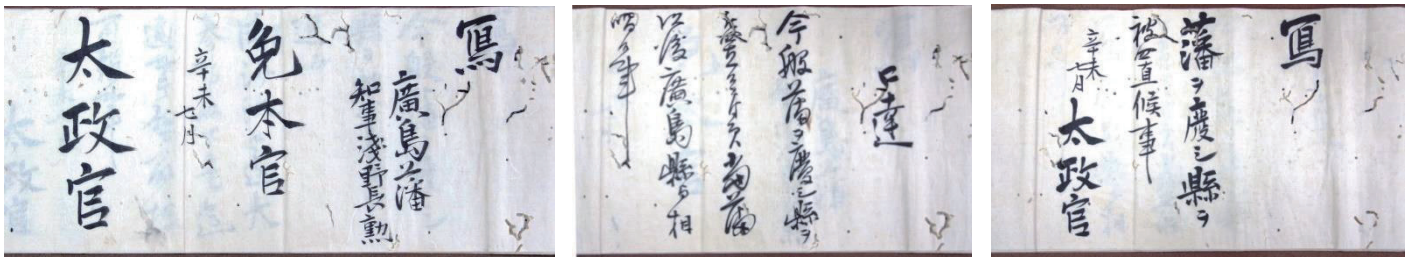
本展では、百五十年の間に二度の焼失と八回の移転を経験した広島県庁舎の変遷を広島県立文書館の収蔵資料によって跡付けます。展示を通して、県庁舎への親しみや、県政に対する関心を深めていただければ幸いです。

一　広島県の成立と県庁の設置

明治四年（一八七一）七月十四日、廃藩置県の詔勅が出され、広島県が成立した。同月二十四日、県は広島城本丸に設置した県庁に旧広島藩士を集め、廃藩置県の趣旨を伝達した。成立当初の広島県の領域は、旧広島藩領の安芸国八郡と備後国八郡であった（明治九年四月に現在の県域が確定）。

明治四年十月十二日、広島城本丸に鎮西鎮台第一分営（明治六年から広島鎮台、のちの陸軍第五師団）が設置されることになり、県庁は三の丸へ移った。しかし、この場所にも兵営が建設されることになったため、明治六年三月二十日に小町の国泰寺境内に仮庁舎を設けて移転した。ところが、明治九年十二月二十五日、国泰寺の仮庁舎は火災で焼失し、翌日寺町の仏護寺（のちの広島別院）へ庁舎を仮設した。

仏護寺は交通が不便で手狭であったため、庁舎の新築が計画され、明治十年四月に政府の許可を得た。こうして明治十一年四月十五日、水主町に洋風建築の県庁舎が新築され、この庁舎はその後昭和二十年（一九四五）までの六十七年間にわたって県政の拠点となった。



廃藩置県の口達写　明治４年７月　（重清家文書 198819-751）

明治４年７月 14 日，「藩ヲ廃シ県ヲ置かれ候事」（廃藩置県）が布告され，広島藩は「以後広島県と相唱候事」になった。これによって広島藩知事の浅野長勲は免職となり，東京居住を命じられた。

■ 広島県の誕生

1　明治元年４月

現在の広島県域には，①広島藩（安芸国８郡，備後国８郡），②福山藩（備後国６郡），③中津藩（備後国甲奴郡内 12 か村，安那郡内２か村，神石郡内 22 か村），④天領（甲奴郡内 12 か村，神石郡内１か村）という４つの支配領域があった。このうち④天領は，明治元年５月に倉敷県となった。

2　明治４年７月 14 日（廃藩置県）

①広島県，②福山県，③中津県，④倉敷県（既に存在）の４県が成立。

3　明治４年 11 月 15 日

府県統廃合により，①広島県は廃止され，甲奴郡内の旧中津県（11 月 14 日廃止→小倉県）・旧倉敷県管轄の 24 か村を加えて新広島県となった。また，②福山県は廃止され，安那・神石郡内の旧中津県・旧倉敷県管轄の 25 か村と備中国９県及び他県内の管轄地を加えて深津県となった。

4　明治５年６月７日

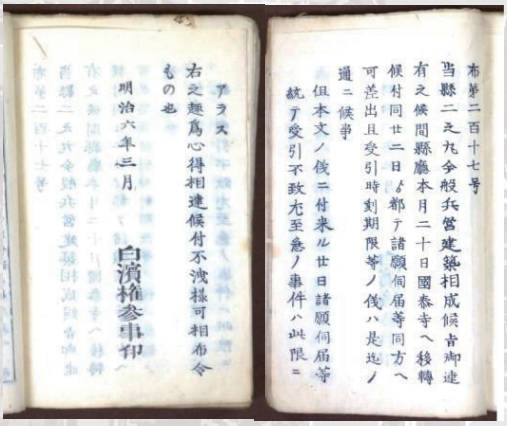
深津県は小田郡笠岡に県庁を定め，小田県と改称。

5　明治８年 12 月 10 日

小田県は廃止され，岡山県に合併。

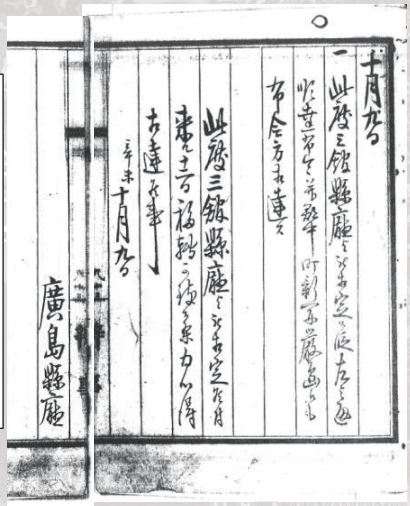
6　明治９年４月 18 日

岡山県内の備後国６郡が広島県へ移管され，現在の広島県域が成立。



県庁の国泰寺移転に係る布令　明治６年３月
「明治六年 御布令 第五号」所収（芸北町役場文書 198911-1482）

明治６年３月 20 日に県庁が国泰寺へ移転するので，22 日以後は諸願・伺・届等の全ての書類を同方へ差し出すよう指示した。

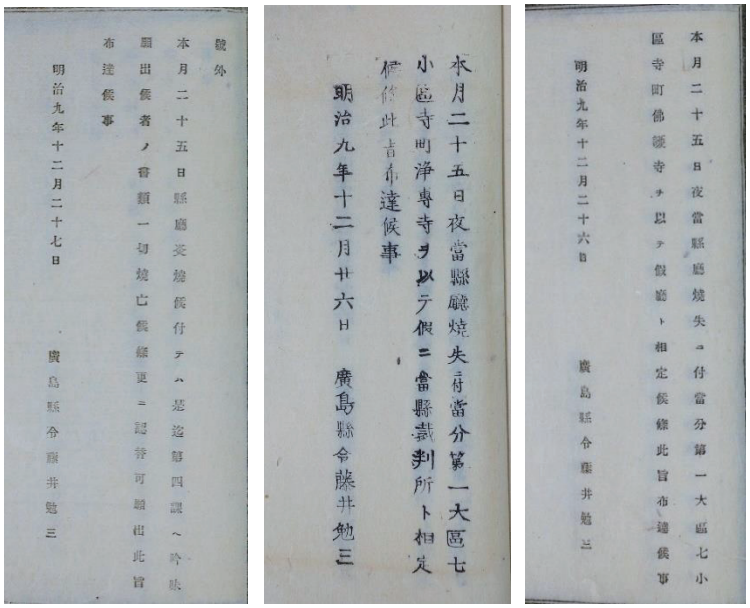


▶県庁の三の丸移転に係る布告　明治４年 10 月９日
「明治四年 布告帳」所収（複製資料 P9110-C7，原本：広島県立図書館所蔵）

明治４年 10 月９日，「三館」（広島城三の丸の館）を県庁と定め，同月 12 日に本丸から移転することが布告された。

［絵葉書］広島国泰寺　明治末～大正初期（長船友則氏収集資料200407-1114）

明治９年12月25日の県庁仮庁舎の火災によって，本堂などの多くの堂宇が類焼し，明治15年に再建された（原爆によって再び焼失）。



本月二十五日夜當縣廳焼失ニ付當分第一大區七小區寺町佛願寺ヲ以テ假廳ト相定候條此旨布達候事

明治九年十二月二十六日　廣島縣令藤井勉三

本月二十五日夜當縣廳焼失ニ付當分第一大區七小區寺町淨專寺ヲ以テ假ニ當縣裁判所ト相定候條此旨布達候事

明治九年十二月廿六日　廣島縣令藤井勉三

號外

本月二十五日縣廳炎燒候付テハ是迄願伺課ヘ吟味願出候者ノ書類一切焼亡候條更ニ認替可願出此旨布達候事

明治九年十二月二十七日　廣島縣令藤井勉三

国泰寺仮庁舎の焼失に係る布達　明治９年12月26・27日「本県布令」所収（山野村役場文書199607-168）

明治９年12月25日に国泰寺の仮庁舎が失火により焼失したため，翌26日に寺町の仏護寺に仮庁舎を設けた。この火災によって多くの重要文書が焼失したため，願・伺等の書類は書き直して再度提出するように布達された。県庁内にあった県裁判所も焼失し，寺町の浄専寺（じょうせんじ）に移った。

［絵葉書］本派本願寺広島別院　明治末～大正初期（長船友則氏収集資料200407-1113）

明治９年12月26日から１年４か月間県の仮庁舎として利用された仏護寺は，明治35年広島別院仏護寺と改称し，明治41年に本願寺広島別院となった。

縣甲第五拾貳號

今般縣下第一大區六小區廣島水主町ニ於テ新築縣廳竣功候付來ル十六日移廳候條此旨布達候事

明治十一年四月六日　廣島縣令藤井勉三

▶水主町新庁舎の新築に係る布達　明治11年４月６日「本県甲号布達録」所収（河毛家文書198818-6）

広島県は明治11年４月15日に水主町に庁舎を新築し，翌16日に仏護寺から移転した。水主町が建設地に選ばれたのは，広島の中央に位置する交通至便の地で，川によって民家と隔絶し火災の恐れが少ないためであった。

広島県庁舎（上）と広島県会議事堂（下）大正15年（1926）頃（水主町）『広島県写真帖』所収（図書A000-2）

写真（上）正面の建物が広島県庁舎本館で，明治11年４月15日に新築された。ルネッサンス式木造２階建で，明治時代の広島を代表する洋風建築であった。その後南北に建物が増築され，明治43年10月には，県庁舎の南側に隣接して県会議事堂［写真（下）］が建てられた。

▶藤井勉三（べんぞう）肖像写真［藤井家文書（広島県令藤井勉三文書）198831-29］

藤井勉三（1840～81）は，明治８年１月に広島県権令となり，９年２月に県令に昇任，13年４月まで務めた。この間，国泰寺仮庁舎の焼失への対応や，水主町新庁舎の建築を指揮した。藤井県令時代に計画された宇品築港事業は千田貞暁（せんださだあき）県令に引き継がれた。

明治40～大正６年

大正７～昭和７年

明治 33～39 年

明治 40～大正６年

昭和８～19 年

大正７～昭和７年

［絵葉書］広島県会議事堂（長船友則氏収集資料 200407-1108・1109）

広島県会議事堂の写真が掲載された絵葉書２枚で，印刷様式から刊行年代が推定できる（上記のとおり）。

［絵葉書］広島県庁（長船友則氏収集資料200407-1104～1108）

水主町の広島県庁舎の写真が掲載された絵葉書４枚。いずれも正門と本館正面周辺を写したもので，絵葉書の住所・宛名欄の印刷様式の違いから，刊行年代が分かる（上記のとおり）。門柱，付属建物，電線，樹木の状況の違いも，撮影年代を推定する手がかりになる。

広島市街地図（部分） 広島市役所　昭和13年９月（長船友則氏収集資料 200407-866）

水主町の広島県庁舎の西側には県立広島病院，南側には与楽園（もと広島藩主の別邸）があった。また，霞町の広島陸軍兵器支廠（しし）（昭和 15 年に広島陸軍兵器補給廠（にしんぺいじょう）と改称）は，戦後県庁舎として利用されることになる。現在の県庁舎の敷地（基町）には，西練兵場があった。

二　県庁舎の原爆被災と復興へのあゆみ

昭和二十年（一九四五）八月六日、原爆被災により、水主町の広島県庁舎は門柱だけを残して灰燼に帰した。当日の夕方、県防空本部が比治山町の多聞院に設置され、高野源進県知事の指揮の下、翌七日には下柳町の東警察署に拠点を移して、救援活動が行われた。八月二十日からは、安芸郡府中町の東洋工業の一部を仮庁舎として、戦後処理に当たった。

その後、広島市霞町の旧広島陸軍兵器補給廠を県庁舎として利用することになったため、昭和二十一年七月十五日に移転し、以後十年間にわたって県政の拠点とした。この庁舎では、レンガ造りの建物の内部を改修して執務室に利用したため、通風や照明などの環境に問題があり、修繕費が年々かさみ、地理的にも不便であった。また、国有財産であるため使用料の納付も必要であった。このような諸事情により、昭和二十年代後半以降、次第に新庁舎建設の機運が高まっていった。

被爆後の広島県庁舎（右）と広島県会議事堂（左）　昭和20年末頃（県行政文書 S01-2009-738 所収）

原爆被災により，爆心地から約 900mの位置にあった広島県庁舎は壊滅し，表門の門柱だけが残った。隣接する県会議事堂も全壊し，瓦礫の山と化した。

被爆直前の広島県庁舎［『広島県庁原爆被災誌』口絵写真（原田貢氏提供）より転載］

東警察署の建物（広島銀行「創業百年史」資料 199109 -2427-3）

昭和 20 年 8 月 7 日から 19 日まで広島県の仮庁舎として利用された。この建物は，昭和 12 年に広島合同貯蓄銀行本店として下柳町に新築されたもので，被爆当時は東警察署になっており，全壊を免れた。この写真は新築当時のもの。

高野源進肖像写真［『広島県庁原爆被災誌』口絵写真（中国新聞提供）より転載］

高野源進（1895～1969）は，昭和 20 年 6 月 10 日に大阪府次長（現在の副知事）から広島県知事に着任。被爆当日の 8 月 6 日は備後地方へ出張中で，難を逃れた。原爆投下の報を聞いて直ちに広島へ向かい，午後 6 時 30 分頃に県の第一避難所であった比治山町の多聞院に到着，県防空本部を設置した。翌 7 日からは下柳町（現在の中区銀山町）の東警察署を仮庁舎として救援活動の陣頭指揮に当たった。終戦後の 8 月 20 日には県庁を安芸郡府中町の東洋工業に移転し，10 月 11 日に警視総監として転任した。

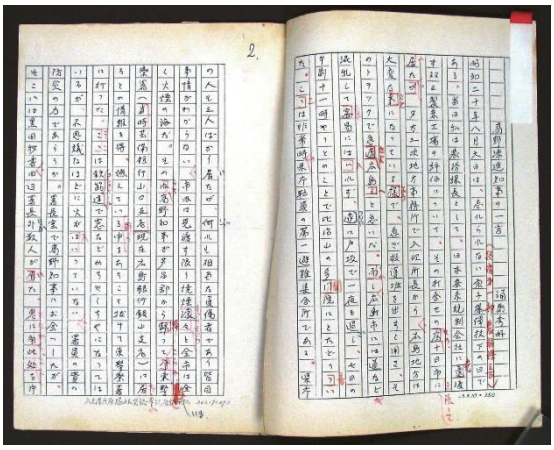
▲現在の加古町（アステールプラザ・広島市文化交流会館）（上）と広島県職員原爆犠牲者慰霊碑（下）　平成 25 年 6 月 9 日撮影

戦前に広島県庁舎や県立広島病院などが所在した水主町（現在の加古町）には，戦後広島市中央卸売市場が設けられ，現在ではアステールプラザや広島市文化交流会館などが立地している。アステールプラザ西側の本川堤防上には，広島県職員原爆犠牲者慰霊碑が建立されている。原爆被災により，県庁舎や県の関係機関において，1,142 名もの県職員が犠牲になった。

■ 涌島秀好氏（当時・経済第一部農務課）の手記「高野源進知事の一言」から

…（８月７日）そのうち，いろいろな情報が来る。県職員は秋吉内政部長夫妻を初めほとんどが全滅，大塚総監は官舎で爆死，粟屋市長も爆死された。この相つぐ悲報に知事はことのほか悲痛な面持ちである。そうしているところへ，「知事さん まことに申しあげにくいことですが，あなたの奥さまも官舎でお亡くなりになりました」と，だれであったか報告をした。

ところが知事は「ああ…そうですか…」とただ一言。あとは市民救済の計画や指揮…この簡単な一語!! そばでじっとこれを見聞していた私は，これこそが長たり責任者たる者の心構えかと，感涙とともに思わず頭が下がり身が震えた。

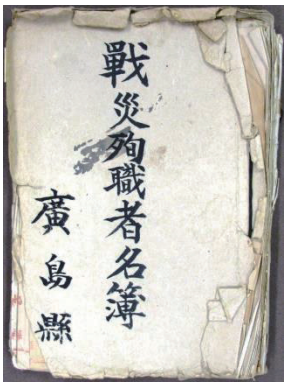


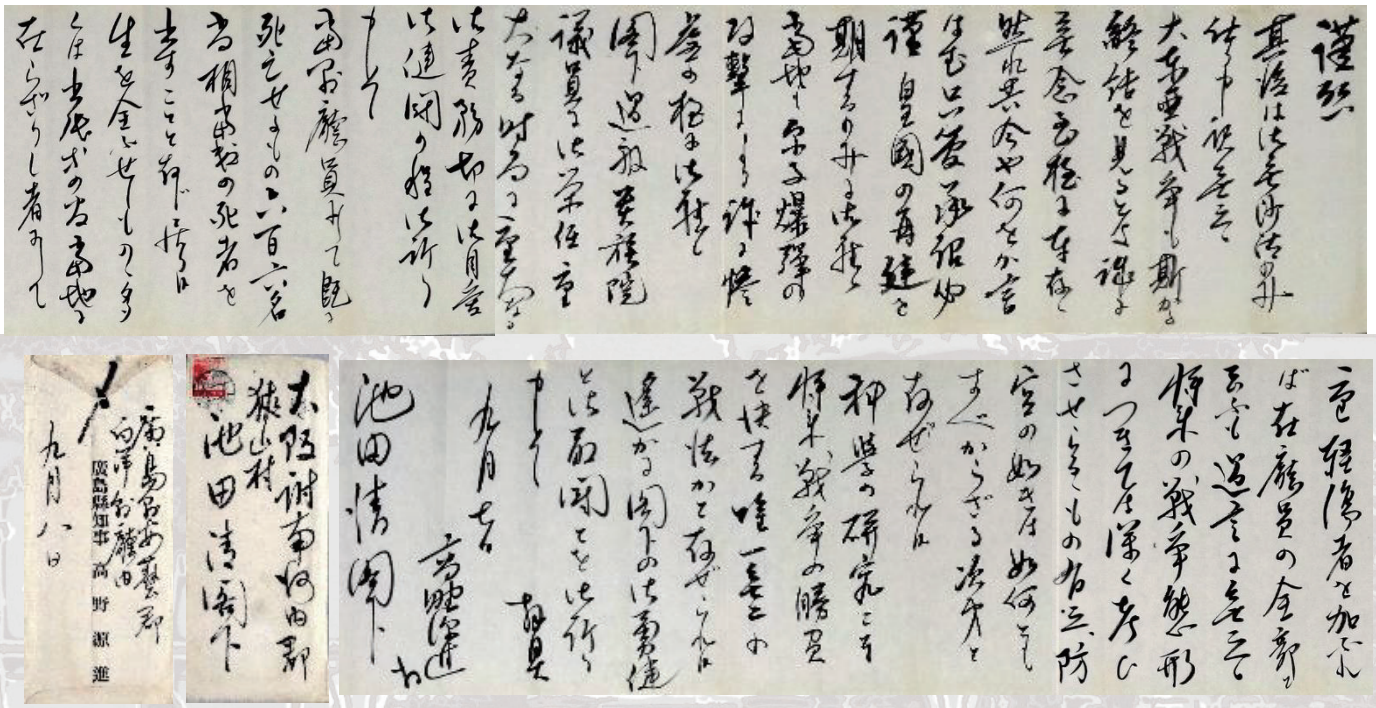
『広島県庁原爆被災誌』手記原本（県行政文書 S01-2014-438・439）

『広島県庁原爆被災誌』は，原爆投下前後の広島県庁や関係機関の状況，及び当時の在職職員の活動の様子を記録したもので，被爆 30 周年を記念して，昭和 51 年３月に広島県が刊行した。この資料は，同書の出版に当たって被爆時の在職職員や遺族から提供された手記の原本で，1,529 名（生存者 677 名，遺族 852 名）に協力を依頼し，422 名から手記が寄せられた。この中から，所属ごとの均衡や内容の重複等を考慮して，122 名分が掲載された。

▶戦災殉職者名簿　昭和21～22年（県行政文書 S01-2014-443）

昭和 21～22 年にまとめられた県庁職員戦災殉職者（原爆犠牲者）名簿。一周忌法要を営むため，昭和 21 年７月に人事課の照会を受けて庁内各課が回答したもので，三回忌法要の際に修正を加えている。

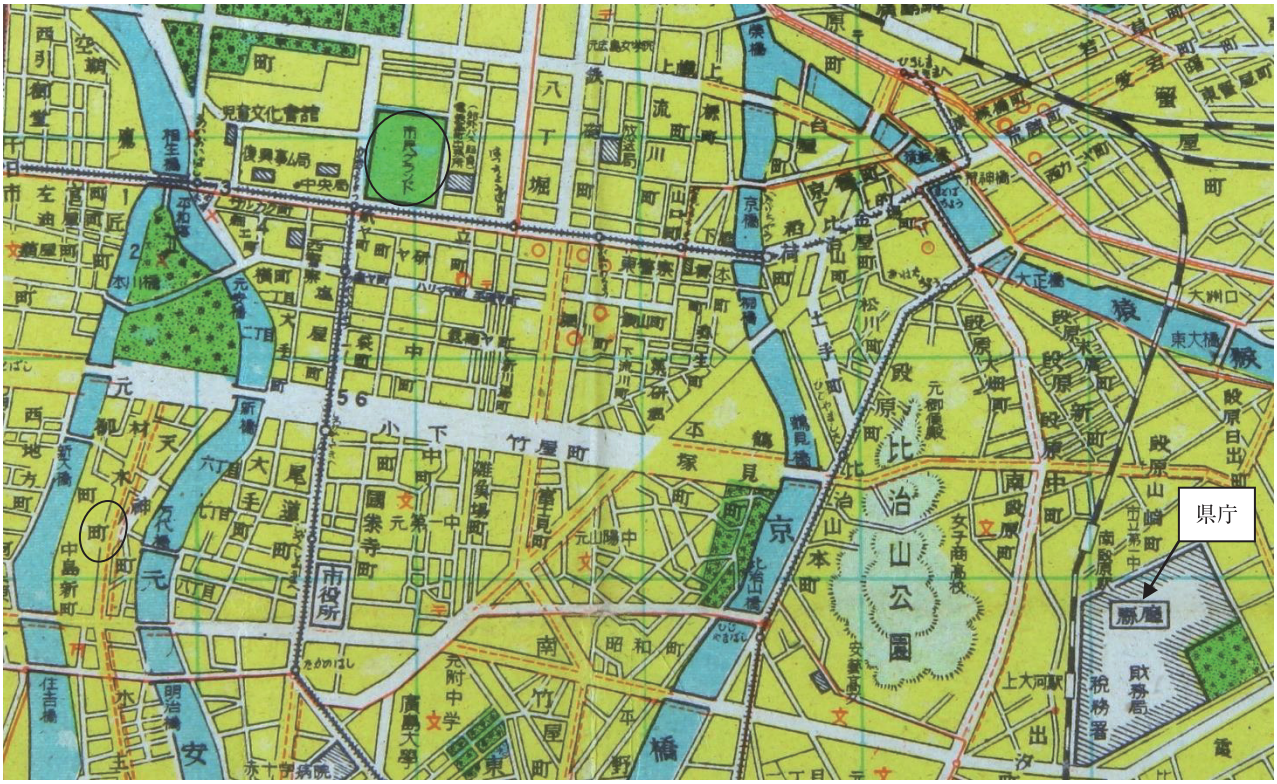




謹啓
其後は御無沙汰のみ
仕り申訳無レ之候、
大東亜戦争も斯かる
終結を見るとは誠に
無念至極に奉レ存候、
然れ共今や何をか言
はむ、只管承詔必
謹、皇国の再建を
期するのみに御座候、
当地も原子爆弾の
攻撃により、誠に惨
虚の極に御座候、
閣下過般貴族院
議員に御栄任、重
大なる時局に重大なる
御責務、切に御自愛
御健闘の程御祈り
申上候、
当県庁員にして既に
死亡せるもの六百六名、
尚相当数の死者を
出すことと存じ居り候、
生を全ふせしもの、多
くは出張等の為当地に
在らざりし者にして、
重軽傷者を加ふれ
ば在庁員の全部と
云ふも過言に無レ之候、
将来の戦争態形
につきては深く考ひ
させらるゝもの有レ之、防
空の如きは如何とも
すべからざる次第と
存ぜられ候、
科学の研究こそ
将来戦争の勝負
を決する唯一無二の
戦法かと存ぜられ候、
遥かに閣下の御勇健
と御敢闘とを御祈り
申上候　　拝具
九月七日
高野源進　拝
池田清閣下

池田清宛て高野源進書簡　昭和20年９月７日（元広島県知事高野源進書簡 201310-1-3）

高野源進県知事が，前任地の上司であった池田清元大阪府知事に宛てた書簡。被爆１か月後に，安芸郡府中町向洋（むかいなだ）の東洋工業内に移転した県庁から出されたものである。原爆被災によって水主町の県庁舎は倒壊し，この時点で県職員 606 名の死亡が確認されており，なお相当数の死者を出すだろうと述べている。



復興大広島市地図（部分）　塔文社　昭和24年5月（長船友則氏収集資料200407-875）

昭和21年7月15日から，広島市霞町の旧陸軍兵器補給廠が県庁舎として利用された。ここには，中国財務局や広島国税局などの国の機関も入居し，最寄駅の国鉄宇品線上大河駅は，通勤客で賑わった。なお，水主町の旧県庁跡地を南北に貫く道路（現在の市道中島吉島線）が書かれているが，この地図で黄色に塗られた道路は都市計画予定線であり，この時点では開通していない。また，現在の県庁舎の敷地（基町）は市民グランドとして利用されていた。

霞町の広島県庁舎（6号館）［広島築港百年史編纂委員会資料(藤原信雄殿所蔵写真) 200307-277］

霞町の県庁舎は，旧広島陸軍兵器補給廠の兵器倉庫を事務室用に改修したもので，主に8棟の建物を本庁舎として利用した。このうち，正門近くにあった6号館には，知事公室や総務部の事務室などが置かれた。

霞町の広島県庁舎（県議会議事堂地鎮祭）昭和24年（坊敏之資料200105-18-2）

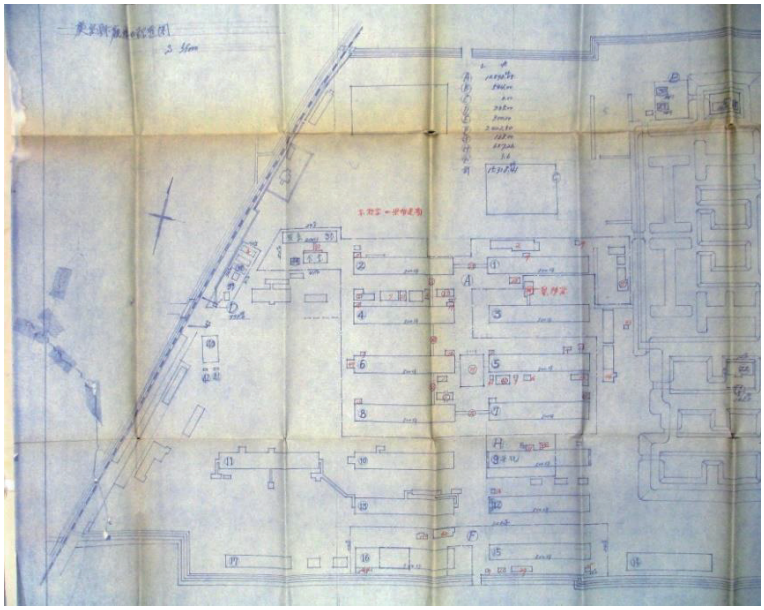
霞町の県庁舎は，独立したそれぞれの建物に各部の事務室が分散して配置され，渡り廊下もなかったため，各部間の連絡が非効率で，雨天の場合は特に不便であった。この写真は，昭和24年に県議会議事堂が建設されたときの地鎮祭の様子を撮影したものである。

▶霞町の広島県議会議事堂［（右）外観，（左）議場］昭和24年頃（坊敏之資料200105-18-2）

霞町への移転当初は，5号館の一角に県議会関係の部屋が割り当てられ，議場は奥まった薄暗い一室に置かれたが，昭和24年に5号館と6号館の間に議事堂が新築された。議事堂は木造2階建で，2階に渡り廊下を設けて5・6号館と結び，議場は1階と2階を吹抜けにして天井を高くしていた。

部対抗秋季運動会　昭和 21 年（中島弘資料 200106-11）

昭和 21 年秋に地元の小中学生を招いて開催された，広島県庁の部対抗秋季運動会の写真。レンガ造り２階建の建物が並列する構内の状況がよく分かる。



広島県庁構内配置図　昭和 31 年［県行政文書（旧長期保存文書）100400 所収］

「県庁構内県有建物及国有財産内造作評価調書」（昭和 31 年２月調製）に添付された霞町の広島県庁構内配置図（○付きの数字は各棟の番号）。県は昭和 21 年以来，国有財産の旧兵器倉庫を借用，30 年末までに 50,918 千円をかけて改修・増築を行い，庁舎として整備した。１～８号館が本庁舎として利用され，９・12・14～16 号館等も県の関係機関が利用した。なお，10・11・13 号館には，国の機関である中国四国建設局，広島国税局，中国財務局がそれぞれ入居した。

霞町県庁舎主要各棟の利用状況（昭和31年４月現在）

号館	部名・機関名	号館	部名・機関名
1	建築部・商工部・土木部(営繕課)	8	経済部・農地部
2	土木部・陸運事務所	9	県税事務所
3	中国管区警察局・広島県警察本部	12	消防学校・県警察学校
4	教育委員会事務局	14	県警察学校武道場
5	県議会事務局・衛生部	15	県印刷所・職業補導所
6	総務部・（会計･用度課）・広島銀行	16	補導所・修理工場・自動車車庫
7	民生部・労働部	※５・6号館の間の建物は県議会議事堂	

日鋼争議（県庁に押しかけたデモ隊）昭和 24 年6月 18 日（県行政文書 S01-2012-1527 所収）

昭和 24 年に実施された財政金融引締め政策（ドッジ・ライン）によって，日本経済は深刻なデフレ不況に陥り，企業の人員整理の動きが全国的に広がった。日本製鋼所広島製作所では，６月２日に全従業員の 1/3 以上に及ぶ 730 人の人員整理案を発表したため，労働組合が反発し，争議に突入した。占領軍も介入し，県内では戦後最大規模の労働争議となった。この写真は，６月 18 日に霞町の県庁に押しかけたデモ隊の様子を撮影したものである。

▲広島大学霞キャンパス・大学病院（上），広島大学医学部医学資料館（下）　平成 25 年6月9日撮影

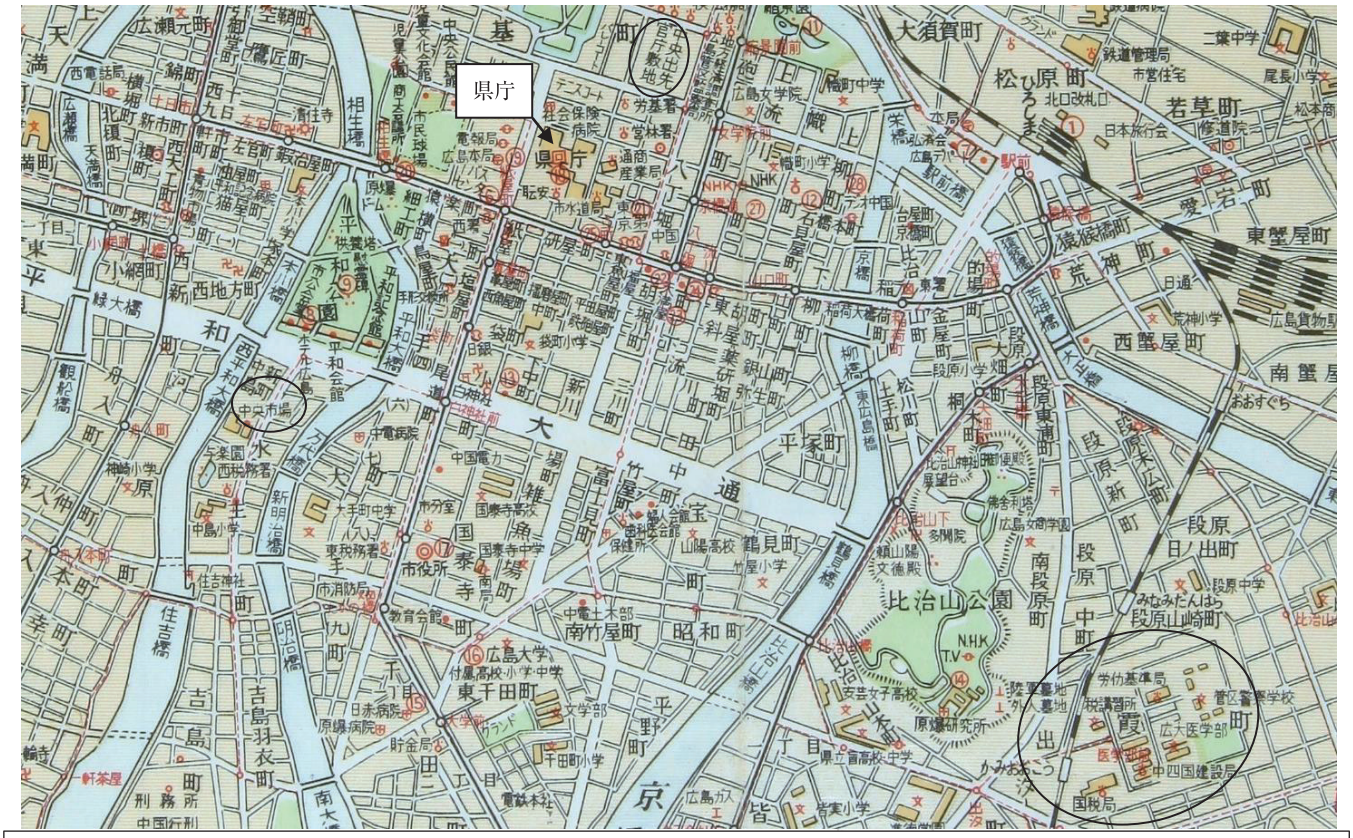
昭和 31 年４月，広島県庁舎は基町に移転し，霞町の旧庁舎建物は国に返納された。この建物は，翌 32 年９月から広島大学医学部の校舎として利用されたが，新校舎や病院の整備に伴って次々と取り壊され，最後に残った 11 号館を改装して，昭和 53 年に医学資料館が設置された。しかし，この建物も，新病棟の整備に伴って，平成 11 年３月に解体された。現在の資料館は，旧 11 号館の被爆レンガや石材をできるだけ再利用し，ほぼ完全な形で外観を復元したものである。

三　新庁舎の建築から現在まで

広島県の新庁舎建築については、昭和二十七年（一九五二）に広島商工会議所から県議会へ請願書が出され、翌二十八年の二月定例県議会に建築促進の発議書が提出された。これを受けて、大原博夫（ひろお）県知事は財源確保のため国と折衝し、起債承認の見通しが立ったことから、新庁舎の建築に踏み切った。総事業費は九億七千万円で、財界や市町村からの寄付金も見込まれた。

新庁舎は、かねて予定していた基町の西練兵場跡地に建築されることになり、昭和二十九年三月に着工し、先進的な工法と技術を駆使して、二年後の三十一年二月末に完成した。四月十九日には盛大な落成式が開催され、二日間の一般公開では県民五万人が訪れた。広島県は、原爆被災から十一年もの歳月を経て、ようやく庁舎再建の悲願を果たすことができたのである。

その後、別館（税務庁舎・農林庁舎）、北館、東館が順次増築され、平成十年（一九九八）には公共建築百選に選定された。平成三十一年三月からは耐震改修工事が行われており、令和三年（二〇二一）に竣工六十五周年を迎えることとなった。



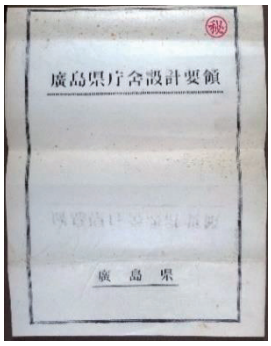
広島市全域地図（部分）　塔文社　昭和34年6月（長船友則氏収集資料 200407-888）

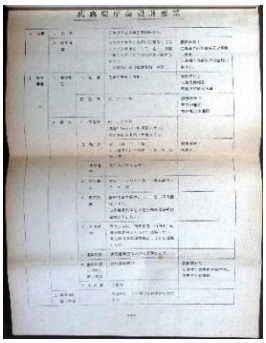
広島県庁舎は，昭和 31 年 4 月に広島市基町へ移転し，霞町の旧庁舎は翌 32 年 9 月から広島大学医学部の校舎として利用された。この地図が出版された 34 年 6 月の時点では，中国四国建設局や広島国税局などの国の機関はまだ霞町にあったが，上八丁堀の「中央出先官庁敷地」と書かれた場所に合同庁舎の建設が進められており，翌 35 年に移転した。なお，戦前に県庁が所在した水主町には，昭和 24 年 10 月に広島市中央卸売市場が開設された。

◀公有財産管理／県庁舎建築起工式一件・庁舎移転経過綴・旧県庁舎一件　昭和 22 ～ 33 年［県行政文書（旧長期保存文書）100400］

広島県は，戦後の早い時点で，基町の西練兵場跡地を将来の新庁舎建設地として予定しており，昭和 22 年 4 月に国から 13,500 坪の土地を借用した。戦後この場所は，市民運動場（野球場）や農耕地，商店，植樹場等に利用されており，農耕地等については，改めて県から地元の耕作実行組合に貸し付けられた。

昭和 25 年 9 月，県は国の意向を受けて，土地区画整理事業による県有地の換地としてこの土地を取得することになり，地元住民に土地の返還と立退きを求めた。住民から補償等の要求があって交渉は難航したが，27 年末頃までには概ね解決し，28 年 11 月 19 日，広島市長から県庁建設予定地として正式に換地の承認を受けた。



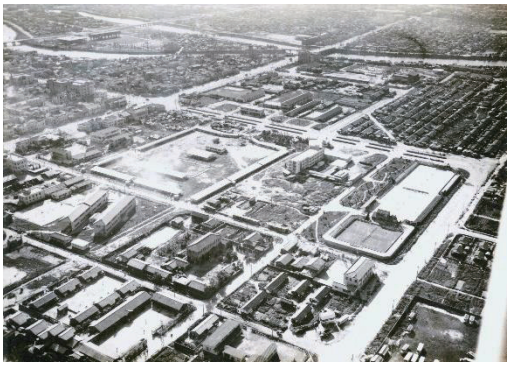


広島県庁舎設計要領
昭和28年（県行政文書 S01-90-293）

広島県建築部営繕課が作成した広島県庁舎設計要領。設計資料として，(1) 広島県行政組織及び課別人員表，広島県分課及び事務分掌規則抜すい，(2) 広島市街地図，敷地付近航空写真５枚（うち４枚は右の写真と同じ），(3) 敷地測量図・敷地高低測量図，(4) 地層表が添付されている。

県庁舎建設予定地航空写真　昭和28年［県行政文書（旧長期保存文書）100439所収］

昭和 28 年に撮影された基町の新庁舎建設予定地の航空写真。左の写真は西から撮影したもので，画面中央の方形の土地が県庁舎建設予定地。その左側には，昭和 27 年８月に開院したばかりの社会保険広島市民病院が見える。画面手前を左右に走る緑地帯２列の道路は現在の鯉城（りじょう）通りで，当時はマッカーサー道路とも呼ばれた。右の写真は南から撮影したもので，画面左下が紙屋町交差点。画面左上には広島城跡が見えるが，まだ天守閣は復元されていない。

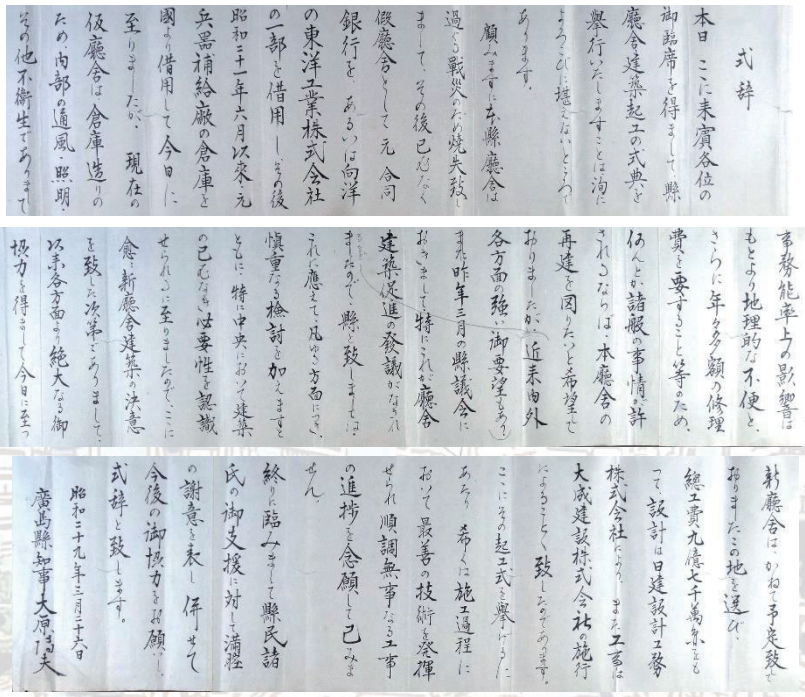


県庁舎建設予定地航空写真　昭和28年［県行政文書（旧長期保存文書）100439所収］

左の写真は北東から撮影したもので，画面中央には県庁舎建設予定地と広島市民病院が，画面左奥には建設中の広島平和会館原爆記念陳列館（現在の広島平和記念資料館本館）が見える。右の写真は北から撮影したもので，画面手前（右下）の広島城跡から画面奥の広島湾まで，復興が進む広島市街地を一望に収める。

広島県庁舎建築工事起工式資料
昭和29年３月26日（坊敏之資料200105-2-2～4）

広島県庁舎建築工事起工式は，昭和 29 年３月 26 日午前 10 時から，関係官公署の長，財界の大口寄付者，県議会議員，工事関係者らを招いて盛大に執行された。



式辞

本日　ここに来賓各位の御臨席を得まして，縣廳舎建築起工の式典を挙行いたしますことは洵によろこび堪えないところであります。

顧みますに本縣廳舎は過ぐる戰災のため焼失致しまして，その後已むなく假廳舎として元　合同銀行を　あるいは向洋の東洋工業株式会社の一部を借用　しその後昭和二十一年六月以來　元兵器補給廠の倉庫を國より借用して今日に至りましたが，　現在の仮廳舎は倉庫造りのため，内部の通風・照明その他不衛生であります事務能率上の影響はもとより地理的な不便と，さらに年々多額の修理費を要すること等のため，ひんぱん諸般の事情，許されるならば，本廳舎の再建を図りたいと希望しておりましたが，近来内外各方面の強い御要望もあり，昨年三月の縣議会において特にこれが廳舎建築促進の發議がなされましたので，縣は致しましてはこれに應じて，凡ゆる方面につき，慎重なる検討を加えますとともに，特に中央において建築の已むなきは必要性を認識せられるに至りましたので，ここに愈々新廳舎建築の決意を致した次第であります。

以来各方面より絶大なる御協力を得まして今日に至った次第であります。

新廳舎はかねて予定致しておりましたこの地を選び，總工費九億七千萬余をもって，設計は日建設計工務株式会社により，また工事は大成建設株式会社の施行によりまして，ここにその起工式を挙行致しましたのであります。

あわせ　希くは施工過程において最善の技術を発揮せられ，順調無事なる工事の進捗を念願して已みません。

終に臨みまして縣民諸氏の御支援に対して満腔の謝意を表し，併せて今後の御協力をお願い，式辞と致します。

昭和三十九年三月二十六日
廣島縣知事　大原博夫

大原博夫県知事式辞原稿　昭和 29 年３月 26 日［県行政文書（旧長期保存文書）100400 所収］

広島県庁舎建築工事起工式における大原博夫県知事の式辞原稿。県庁舎の再建をめぐる原爆被災以来９年間の経緯が述べられている。

広島県庁舎新築工事落成式資料　昭和31年4月19日（坊敏之資料200105-2-6～13）

新築工事落成式は，昭和31年4月19日午前10時から新庁舎の正庁（現在の講堂）で開催された。19・20日の2日間は県民に開放され，5万人が見学に訪れた。

読売新聞広島版記事「新県庁舎　きょう喜びの落成式」昭和31年4月19日(坊敏之資料200105-2-19)

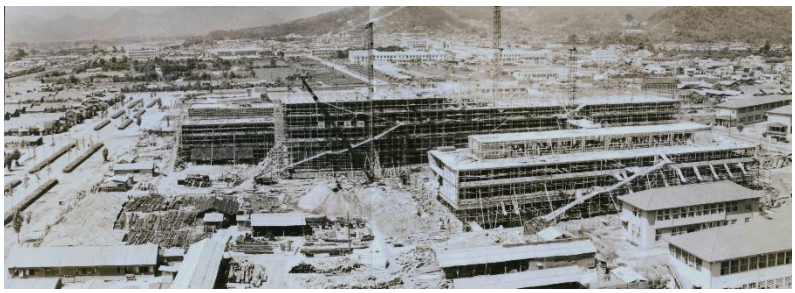
2,300個の蛍光灯を点灯させた新庁舎の夜景写真を掲載し，その様子を「復興広島のシンボル　さながら大洋をゆく豪華船」と伝えている。

『建設工業通信』第9巻第10号　昭和31年4月10日（坊敏之資料200105-2-17）

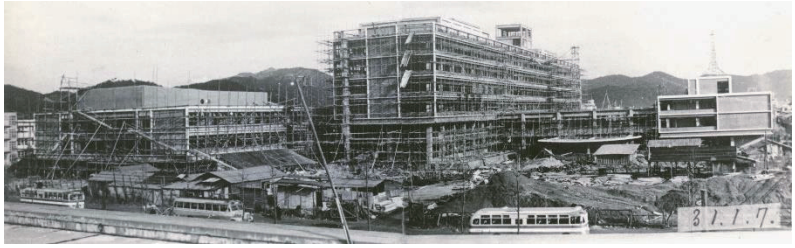
新庁舎の設計上の特徴は，地盤の悪いデルタ層に杭（くい）打ちなしで6階建てを可能にした浮函（うきはこ）工法と，主要事務室を南面させた並列配置である。建物と調和した庭園の設計にも意が尽くされた。

昭和29年12月（北から）

昭和29年12月（北から）



昭和30年7月1日（南から）



昭和31年1月7日（西から）

県庁舎建築工事写真［県行政文書（旧長期保存文書）100392所収］

広島県庁舎（落成時，南西から）昭和31年（坊敏之資料200105-2-1）

紙屋町交差点を望む（北東から）

中庭

一般事務室

議場正面

広島県庁舎竣工写真　昭和31年（坊敏之資料200105-2-1）

「戸棚・机から搬出開始」

「梱包品も集積される」

「お昼 弁当で腹ごしらえ」

「バックで地下室に進入」

「更に更に荷物搬入が続けられます」

農地開拓課の移転作業　昭和31年4月［大宮利信氏所蔵資料（複製）P201301］

霞町の旧庁舎から基町の新庁舎への移転作業の様子を伝える貴重な写真。当時農地開拓課の職員であった大宮秀男氏が撮影したもので，各写真のコメントも大宮氏が記入したものである。

広島県自治会館竣工写真　昭和31年4月（坊敏之資料200105-4-2）

広島県自治会館は，県庁舎構内の北東隅に建築され，県庁舎とともに竣工した。この写真は，県庁舎の上階から北東の二葉山方面を望んだもので，復興が進む庁舎周辺の状況がうかがえる。

◀広島県庁舎とその周辺（航空写真，南西から）昭和35年頃（広島県立図書館移管文書200811-12）

昭和35年頃のものと推定される広島県庁舎周辺の航空写真。旧広島市民球場（昭和32年7月竣工）の東側では，西警察署庁舎の建築工事が進んでいる（昭和36年4月に業務開始）。紙屋町交差点の北東側では第一生命ビルがほぼ完成し（昭和35年10月竣工），北西側には旧広島バスセンター（昭和32年7月竣工）が見える。市民球場南西側の広島商工会議所ビルは，建て替え前の古い建物である。基町・紙屋町地区は，昭和30～40年代に建築ラッシュで街の景観が一変した。

広島県庁舎の変遷

年	月	日	事項
明治4	1871	7月14日	廃藩置県により広島県が成立
		7月24日	広島城本丸に県庁を設置
		10月12日	広島城三の丸へ県庁を移転
明治6	1873	3月20日	小町の国泰寺境内に仮庁舎を設けて移転
明治9	1876	12月25日	国泰寺境内の仮庁舎が火災で全焼
		12月26日	寺町の仏護寺に仮庁舎を設置
明治11	1878	4月15日	水主町に新庁舎を建築
昭和20	1945	8月6日	原爆被災により県庁舎が壊滅
			夕方，比治山町の多聞院に県防空本部を設置
		8月7日	下柳町の東警察署に仮庁舎を設置
		8月20日	安芸郡府中町の東洋工業に仮庁舎を設置
昭和21	1946	7月15日	霞町の旧広島陸軍兵器補給廠に県庁を移転
昭和29	1954	3月26日	基町の新庁舎建築工事起工式を開催
昭和31	1956	2月29日	新庁舎竣工
		4月19日	県庁舎新築工事落成式を開催
昭和32	1957	3月	別館（税務庁舎）を建築
昭和41	1966	7月	農林別館（農林庁舎）竣工
昭和45	1970	10月	北館竣工
昭和59	1984	9月	東館竣工
平成10	1998	10月	公共建築百選に選定される
平成31	2019	3月	耐震改修工事着工［令和4年(2022)3月完成予定］

◀広島県庁舎（西から）昭和61年4月［県行政文書（広報写真）S05-2002-3402］

◀広島県庁舎（航空写真，南西から）平成5年［県行政文書（広報写真）S05-2008-6-2］

広島県立文書館収蔵文書展

広島県誕生150周年記念

資料からみた広島県庁舎の歴史

発　　行　令和3年（2021）3月29日

編集・発行　広島県立文書館（担当　荒木清二）

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47

TEL 082-245-8444　FAX 082-245-4541

E-mail monjokan@pref.hiroshima.lg.jp

印　　刷　青木印刷株式会社

主要参考文献

『広島原爆戦災誌』第3巻　広島市　昭和46年10月

『広島県庁原爆被災誌』広島県　昭和51年3月

『広島県史』近代1　広島県　昭和55年3月

『戦後五十年広島県政のあゆみ』広島県　平成8年3月

『平成13年度 収蔵文書展 広島戦後の記録 1945-1970』広島県立文書館　平成13年10月

平成26年度県庁ギャラリー展示『広島県庁舎の戦災復興』広島県立文書館　平成26年9月